

藍住町

第88号

平成29年2月25日

議会だより

12月定例会

平成28年度一般会計・特別会計補正予算P. 3
一般質問～市政のここが聞きたい～P. 4～8
議員研修報告P. 9
わたしの一言：議会のうごきP.10

「あかちゃん絵本の読みきかせ会」の様子（藍住町立図書館）

12月議会定例会が12月6日から19日までの14日間の会期で開会され、次の議案について審議しました。

一般質問では5人の議員が登壇し、町政について質問しました。

12月定例会

～町長提案～

- 平成28年度藍住町一般会計補正予算 原案可決
- 平成28年度藍住町特別会計（国民健康保険事業）補正予算 原案可決
- 平成28年度藍住町特別会計（介護保険事業）補正予算 原案可決
- 藍住町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定 原案可決
農業委員会等に関する法律の改正に伴い、現在の藍住町農業委員会委員の定数に関する条例を廃止し、新制度による農業委員や農地利用最適化推進委員の定数を定めるための制定
- 特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 原案可決
農業委員会等に関する法律の改正に伴い、新たに農地利用最適化推進委員の報酬額を定めるための一部改正
- 監査委員選任の同意 林健太郎氏

～議員提案～

- 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書 原案可決
提出者 永瀆 茂樹 議員
提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・内閣官房長官・財務大臣・総務大臣・厚生労働大臣
- 参議院選挙における合区の解消に関する意見書 原案可決
提出者 永瀆 茂樹 議員
提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・法務大臣・内閣官房長官

「地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書」を提出

（概要）
地方分権時代、地方公共団体の自主性及び自立性が求められる中、地方議会の果たすべき役割と責任が重くなっている。
しかしながら、町村では議員への立候補者が減少し、無投票当選が増加するなど、住民の関心の低下や地方議会議員のなり手不足が大きな問題となっている。
地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望する。

「参議院選挙における合区の解消に関する意見書」を提出

（概要）
去る7月10日に合区による参議院議員選挙が行われ、我が徳島県及び高知県選挙区においては、広範囲にわたる選挙活動の困難さや、有権者が直接候補者の政見に接する機会が減少するなど、民主主義の根幹に関わる幾多の問題点が明らかに、深刻な課題を残した。
合区による選挙制度を見直し、都道府県単位による代表が国政に参加する仕組みを速やかに構築されるよう強く要望する。

～平成28年 第2回臨時会～

11月28日開催の臨時会において次の議案が上程され、原案のとおり可決した。

- 職員の給与に関する条例の一部改正 原案可決
人事院勧告及び徳島県人事委員会勧告に準じ、給料表については約0.2%、勤勉手当については、年間の支給月数を0.1月分引き上げる改正

～平成29年 第1回臨時会～

2月7日開催の臨時会において次の議案が上程され、原案のとおり可決した。

- 平成28年度藍住町一般会計補正予算 原案可決
（仮称）藍住町文化ホール・公共施設複合化事業の継続費総額及び期間の変更
- 固定資産評価員の選任 藤本伸氏



監査委員選任に同意

林 健太郎 氏 (徳島市)
任期 平成28年12月25日から平成32年12月24日

請願

1件の請願がありました。賛成少数で不採択となりました。

●業者婦人の働きを認めない差別的税制、所得税法第56条の廃止を求める請願

請願者

徳島民主商工会

会長 森本 克博 氏

紹介議員

林 茂 議員

小川 幸英 議員

陳情

3件の陳情があり、議員に配布しました。

▼電気設備工事・管設備工事の分離発注推進のお願い

陳情者

(一般社団法人)徳島県設備業協会

会長 栗本 利幸

▼「最低保障年金制度の実現を国に求める意見書」採択に関する陳情書

陳情者

徳島県社会保障推進協議会

会長 井上 尚

▼「年金減額のしくみ『マクロ経済スライド』の廃止を求める意見書」の採択に関する陳情書

陳情者

徳島県社会保障推進協議会

会長 井上 尚

平成28年度一般会計補正予算

12月 定例会

歳入歳出それぞれ

5億3,000万円増額

予算総額

132億9,900万円

～主な補正内容(1万円未満切り捨て)～

- **総務費**
 - ◆ (仮称)藍住町文化ホール・公共施設複合化事業費(修正設計委託料) 5,608万円
- **農林水産業費**
 - ◆ 農業振興費 285万円(とくしま明日の農林水産づくり事業補助金)
- **教育費**
 - ◆ 給食調理加工費 1,080万円(原材料の高騰のため)

- **民生費**
 - ◆ 臨時福祉給付金(経済対策分) 1億571万円
 - ◆ 老人福祉総務費 2,170万円
 - ◆ 医療介護提供体制改革推進事業費 1億2,383万円(地域密着型特別養護老人ホーム建設補助金)
 - ◆ 児童館総務費 1,084万円(住吉児童館・江ノ口児童館耐震化等工事費)
 - ◆ 子どもはぐくみ医療福祉費 1,000万円

平成29年 第1回臨時会

(平成28年一般会計補正予算)

- ◆ (仮称)藍住町文化ホール・公共施設複合化事業(継続費) 5,405万円(継続費総額:39億10万円、事業期間:平成29年度から平成30年度までに変更)

平成28年度特別会計補正予算

会計名	補正前の額	補正額	補正後の額
国民健康保険事業	37億7,000万円	1億9,500万円	39億6,500万円
介護保険事業	23億4,800万円	6,900万円	24億1,700万円

道路橋梁長寿命化修繕計画について

優先順位を決めて補修を実施する



永濱 茂樹 議員

問 平成26年3月議会で、名田橋橋脚のひび割れ、鉄筋が見え劣化している写真を見せて説明したが、その後、進捗はない。11月2日に再度写真を撮ってきたが、以前より亀裂がひどくなっている。防災・人命救助施策として早期対策を講じていただきたい。

答 平成26年2月に町から徳島県知事に対して、早急に補修をしてもらえるよう要望書を提出しており、県は、欄干等の老朽化対策、交通安全対策から工事に取り掛かっている。その後耐震工事を予定しているとのことである。
なお、町管理の橋梁の修繕等は、修繕計画及び定期点検結果に基づき、優先順位を決めて補修を実施する。

交通渋滞緩和・交差点見直し対策

県・関係機関等と協議し検討していく

「世界津波の日」制定

定期的に避難訓練を実施し啓発に努める

問 国連は2015年12月、日本をはじめ142か国が提案し、11月5日を「世界津波の日」と制定した。土地地盤の低い東部地区に、藍住町の津波基準水位にあった津波避難人工高台設置を講じていただきたい。

答 藍住町議会防災対策特別委員会は平成28年11月18日に議員10名、職員3名で小松島市役所とニュータウン地区津波避難施設「命山」を見学。市の危機管理課の

問 県道徳島引田線、豊国生コン西の交差点は、朝夕の通勤時間帯は混雑し、地域住民の方、道路利用者は大変困惑している。県に交差点の改良要望、陳情を講じていただきたい。

答 大規模店舗の出店や人口増加に伴い、町内の県道や主要町道で渋滞が発生しており、解消に向けての対策が必要であると認識している。
今後、県や関係機関等と協議し、渋滞緩和に向けて検討していく。

方から詳細に説明をいただき、「一頂上部は、津波基準水位3・4mより2m高く5・5mに設定。第一に人命を守ること。」との話であった。津波避難人工高台設置は急務である。行政として対策、検討を。

答 勝瑞地区の避難所として藍住東小学校を認定しており、徳島北高等学校・勝

瑞城館跡公園については一時避難所としている。住民の皆さんが安全に避難するために、引き続き避難訓練や啓発に努める。
津波避難人工高台設置は、用地の確保や地盤改良等の問題、また周辺への影響などを考える必要もあり、現在のところ計画はしていない。

その他の質問

- 藍住町転入者へ、防災連絡・周知対策
- 環境保全条例に伴う啓発活動
- 藍住町第三セクター道の駅設置について
- マスコットキャラクターあいのすけネクタイピン推進



津波避難施設「命山」(小松島市)

職員の雇用と処遇改善について

整合性を図り処遇改善に努める



林 茂 議員

- 問** 働く人の4割が非正規雇用、4人に1人が年収200万円以下。非正規労働者の多くが正規と同じ仕事をしているのに賃金は半分から6割程度で、若者は結婚したくても結婚できないなど社会問題になっている。
- 答** ①町の全職員数と正規職員、非正規職員数の雇用状況は。また臨時職員で長期雇用者は何年か。
- ②臨時職員に対して、処遇改善のために「7・4総務省通知」が出された。町も規定を見直すこと。
- 答** ①全職員は343名、うち職員218名、臨時職員125名。
- 雇用期間は、数か月から、職種によっては10年を超えている人もいます。
- ②全体のバランス等を考慮し検討する。



公共下水道南部支線管渠工事（奥野）

問 ①町の下水道と合併浄化槽の普及率と事業費は。

②東日本大震災で下水道は4県で3195億円の大きな被害を受けたが、浄化槽で全損は3・8%だけだった。町の公共下水道には、1人当たり85万3千円、合併浄化槽では9万5千円使っている。災害に強く単価が安い、合併浄化槽に切替え、浮いたお金で給食費や保育料の負担軽減を。

答 ①下水道事業普及率9・2%、事業費27億5028万円。合併処理浄化槽普及率44・2%、事業費8億7029万5千円。

②下水道事業は、藍住町公共下水道全体計画や汚水処理構想に基づき、費用対効果の経済比較を行った上で、公共下水道事業が有利であると判断し、事業を進めている。

公共下水道事業費は
合併浄化槽の9倍
費用対効果の比較により事業を進めている

町営住宅の家賃減免基準を設けること

他市町村の状況を参考に検討する

- 問** ①町営住宅の耐震診断と耐震改修状況は。くみ取りを合併浄化槽に変えること。
- ②家賃の収納状況と対応は。
- ③国は、家賃の減免基準は生活保護基準以下の収入を目安としている。町も減免規定の基準を定めること。
- ④町は公共施設カルテの作成を。
- 答** ①12団地のうち中富団地、敷地団地は耐震化が必要であるが、財政状況を勘案しながら検討していく。
- また町営住宅は、空き家政策をとっているため、浄化槽の設置は考えていない。
- ②平成27年度収納済額4895万9639円、収納率86・51%。滞納者には催告書の送付や、具体的な納付計画を立てるなど、納付指導を行っている。
- ③減免規定は藍住町営住宅設置及び管理に関する条例で定めているが、具体的な要件は、他市町村の状況を参考にし、今後検討する。
- ④平成29年度中に完成予定で作業を進めている。

学校教育について

関係者と連携し、不登校の解消に努める



小川 幸英 議員

問 ①本年度のいじめの現状と対策はどうか。

②不登校の現状と在宅不登校の子供の対策はどうか。

答 ①上半期で、小学校は41件、中学校は56件。定期的なアンケートやQUTテストを実施し、いじめにつながるような事案の早期発見を心掛け、全職員で対応するよう努めている。

②小中学校合わせて37人。訪問・連絡日誌を作成し、学校、教育委員会等が情報の共有を図り、連携しながら不登校の解消に努めている。

新規就農者の支援対策の実情と対策について

県との連携を密にし、全面的に協力する

問 ①新規就農者に対し、町が認定すると機械施設等の取得のための無利子融資や青年就農給付金が受けられるとのことであったが、どうなっているか。今年度の新規就農者は何人いたか。

②農業後継者においても家族経営協定の締結により、人・農地プランに位置づけられると、機械・施設の導入時に低利融資や補助制度があるとのことであったが、昨年度はこの制度を受けた人は何人いたか。申し込んだりも審査が厳しくて融資や補助制度が受けられない人が多いと聞く。町独自の

の融資を考えてはどうか。
③特産品の充実とブランド化はどのように取り組んでいるか。

答 ①青年等就農計画を提出してもらい、町が認定後、給付が受けられる。現在30代の男性を認定予定。

②県との連携を密にし、補助金等がもらえるよう努力する。

③今年、商標登録を行った「愛住」を使用した「愛住ねぎ」の販売を始めており、ふるさと納税の返礼品や学校給食への利用等、販路の拡大支援をしていく。



「愛住ねぎ」

その他の質問

○ふるさと納税について

子育て支援の充実について

認可保育所の定員拡大に努める

問 ①来年度の認可保育所の総定員は584人の予定であるが、来年度の保育所申し込み状況と待機児童対策はどうか。

②認可保育所の連携や立入調査はしているか。

③一般の企業でも従業員の子育て支援策の一環として企業内保育所の導入が進められている。企業に対しての働きかけは。

答 ①現時点での申込みで定員を超える予測しており、4月からの希望者全員の入所は厳しい。可能な範囲で定員を超える入所の受け入れを行いたい。

②定期的に連絡会議を実施。立入調査は徳島県が行っている。

③法的には、認可外保育所となり、県知事に届出を行い、市町村にも写しを送付することになっている。企業保育所が設置されたときには、連携し協力したい。

藍の魅力発信 「藍の町あいずみ」について

継続的にイベントを行い、
多くの人に関心を持ってもらう



西岡 恵子 議員

問 東京五輪の公式エンブレムにインディゴが採用され藍染めが注目されています。12月4日藍住町主催で「インディゴコレクション2016」のファッションショーが開催されました。このイベントは幼稚園から大学生が自分で作った藍染作品を身に着けての出演でしたが、その反響と今後の藍の魅力発信への取組、また藍の栽培について尋ねます。

答 見に来られた方、子供たち、家族の方からは「藍染めのイメージが変わった」、「もっと、ランウェイしたかった」と大変好評だった。一方で「知らなかった」、「見に行きたかった」との声もあり、告知の方法等、課題も見つかった。

藍の魅力を知ってもらい、藍を身近に感じてもらうことは、こうした事業を継続的にを行い、より多くの人に関心を持ってもらえることが必要だと考えている。来年度は、できるだけ早く事業計画を策定し開催したい。

また藍の栽培については、協力してもらえそうな団体や農業者



インディゴコレクション2016の様子
(町民シアター)

空き家対策について 調査結果に基づき対策を進める

問 県内各市町村において空き家の実態調査が実施され、本町では(株)ウエスコに453万6千円で業者委託し、平成29年1月31日までの期間で現地調査を実施しています。現状と調査確認後の空き家への対応について尋ねます。

災害時、倒壊の危険性が高い空き家については早急な対策をお願いします。

答 現在、空き家についての実態を把握するため、町内の全戸調査を行うっており、調査の結果に基づいて、対策を進める。

の方に声掛けをし、支援策も含めて検討する。

その他の質問

○児童・生徒の学習状況について

高齢化対策について

高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進める



問 2025年・2030年の超高齢化問題の対策が必要と言われています。右肩上がりで増えてきた日本の人口は、今後減少傾向、3人に1人が65歳です。

本町においても高齢化は進み3・6人に1人が65歳以上、9千人と推計されています。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる取組について尋ねます。

答 老人憩の家等を活用し、介護予防事業の推進や高齢者の生きがいづくりの促進に努め、社会福祉協議会等と連携して地域が支え合いながら、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めたい。

社会資本整備事業に関する課題について

予定価格の適正な設定、適切な設計変更、
ダンピング受注の防止に取り組んでいる



西川 良夫 議員

問 建設業界の人手不足は災害対応を含む社会資本の維持管理を担う企業の衰退を招き、安全・安心な地域生活の維持に支障が生じる恐れがある。業界の安定した経営により若者にも魅力的な職業として人材確保につながるような取組が必要だ。徳島県建設業協会も、市町村に対して工事発注、施工の平準化と早期の予算執行を求めている。また改正品確法では、歩切の禁止、ダンピング受注の防止、工事の性格や地域の実情等に応じた入札契約方式の改革などが追加された同法の適切な運用について状況を伺いたい。

答 全ての建設工事の入札に最低制限価格制度を適用しており、ダンピング受注の防止に取り組んでいる。

また工事発注の平準化、早期予算執行は、予算執行上の工夫や、余裕期間の設定など、契約上の工夫等を行い適切な工期を設定し、発注・施工時期等の平準化を図るよう、努力していく。

子育て支援について

支援拠点整備の組織体制を検討し、準備を進める

問 虐待の疑いがあるとして1月から6月に徳島県警が児童相談所に通告した18歳未満の子供は134人と過去最多となった。少子化や核家族化、あるいはコミュニティの崩壊に経済不況等の世相が加わったの生きづらさの現れと語られ、虐待はどの家庭にも起こりうるものとしている。子育て家庭と接点を持つ各機関の申請窓口等の連携により、支援につながると思うが、本町の状況はどうか。また、改正児童福祉法の成立により、来年から子育てに問題のある家庭への支援拠点の設置を市町村に求めているが対応を伺いたい。

答 保健センターでは、乳児のいる全ての家庭を訪問して親子の心身の状況や養育環境等の把握を行い、保健指導を実施している。また、子供と直接関わりのある機関を通じて、支援を必要とする家庭を早期に発見し、関係者によるケース会議を行い情報の共有化や連携を図り、適切な支援活動に努めている。

支援拠点整備は、児童家

庭に関する実情の把握、相談対応、調査・指導等、関係機関との連絡調整を一体的に行うことが想定されて

おり、専門性を有する人材が必要となるため、組織体制を検討し準備を進める。



保健指導(食育)の様子 (保健センター)

議員研修報告

11月21日から22日に市町村議会議員特別セミナーが国際文化アカデミー(滋賀県)で開催され、本町議会から2名が参加した。

議会議員 安藝 広志
議会議員 鳥海 典昭

2日間の日程で講師は4人、日本経済新聞社から谷隆徳氏、京都府舞鶴市長・多々見良三氏、元東京大学総長・佐々木毅氏、前内閣官房まちひとしごと創生本部地方創生総括官・山崎史郎氏、そして参加されている全国から集まった1000人を超える市町村議会議員の方たちと意見を交わしてまいりました。講演は「メディアからみた地方分権」、「選択と集中、分担と連携をコンセプトとした自治体運営」、「変化する政治、経済の中の自治体経営」、「地方行政を考える、人口問題を中心に」と多岐にわたり、貴重なお話を聞くことができました。普段テレビや新聞などで目や耳にする問題や社会情勢に対してどう向き合ってい

くべきなのか、変化してゆく政治経済の中で生きていくには何が大切なのか、また地方議会議員としての役割や行政との関わりがいかほど大切であるのか、などといった一歩踏み込んだ内容の講演でした。また機会がありましたらこういった研修へ積極的に参加し、藍住町議会議員の一人として研さんを積み、議員としての資質を高めるべく取り組んでいきたい。そして我が町藍住町へと貢献できるように日々努力していきたいと思

います。(安藝 広志)

11月21日、早朝より起床し、全国市町村議会議員特別セミナー参加のため、滋賀県大津市へ行く。インフラ整備の普及で大変便利になり、陸路3時間余りで到

着です。

セミナーで「地方分権」

という言葉がありました。が、随分前に毎日のように言われていたことを思い出しました。1995年に地方分権推進法が成立しましたが、分権を求める声はもともと古い時代から長時間にわたり、議論されてきた歴史があります。しかし、実際のところ成果と云えば、国と自治体は、上下・主従から対等・協力となり、自治体の条例制定権が広がりましたが、分権改革は余り進まず、現在ではほぼ終息し、今、毎日のように言われている「地方創生」の時代へとシフトし、全国各地で熱心に取り組んでいます。今回のセミナーを終えて、講習はもろろんのことですが、全国の地方議員との交流ができ、地方各地の情勢、情報、政策等が分かり、大変有意義な2日間でありました。情勢が激変し、課題が山積する社会において、私たち議員は、自覚と責任を持った活動を行わなければならないと思います。(鳥海 典昭)

町村議会議員全国大会

11月9日、町村議会議員全国大会が東京都(NHKホール)で開催され、森議長が参加しました。

防災対策特別委員会行政視察

11月18日、小松島市役所及び小松島市ニュータウン地区津波避難施設「命山」の行政視察を実施。小松島市危機管理課の方より、津波避難施設整備の経緯や管理について説明をいただき、小松島市ニュータウン地区津波避難施設「命山」の見学をしました。



高松高裁議会の控訴棄却

西岡恵子議員の処分取消請求訴訟

町内に生活の実態がなく議員資格を有しないとする議会の議決により、前任期において失職した西岡恵子議員が、議会の決定の取消しを求めた訴訟の判決が平成29年1月31日高松高裁であり、議会の議決を取り消す判決が下されました。本議会は、この判決を不服として、最高裁判所に上告しています。



定例会案内

次の定例会は3月です。次号は5月に発行します。

本会議を傍聴しませんか

詳しくは議会事務局までお問い合わせ ● 議会事務局 637-3127

編集委員会では、町民の声の投稿を募集しています。議会や町政に関する御意見を寄せください。

投稿規定

- ①住所・氏名・電話番号を明記。
- ②掲載時に匿名を希望する方は申し出てください。
- ③字数は500字以内。
- ④投稿者の多い場合には、掲載月を調整する場合があります。

勝瑞城館跡まつりのともしびをいつまでも…

私の子供の頃の藍住町は、藍園村と住吉村の合併当初で人口が1万人ほどの純農村でした。しかし、今ではゆめタウンなどの進出で、県下の人口増加を呈し町民として喜ばしい限りです。

そして、この藍住町にはかけがえのない貴重な財産があります。それは今から600年ほど前の歴史を遡った室町時代にあります。当時の勝瑞では幕府の守護職が置かれて阿波国を統治していた。

これらの貴重な財産について、町は史跡の発掘をしており、平成13年1月に国指定史跡を受け勝瑞城館跡として整備を進めています。やがて近い将来は、こうした膨大な発掘資料を公開展示されることに期待をするものです。

また、今から17年前に史跡の国指定を記念し、周辺住民や先人の熱い思いが「勝瑞城館跡まつり」として実施。昨年は16回のおまつりを開催することができました。城館跡まつりは地域の小さなおまつりですが、多くの子供や若者、高齢者らが集い、地域住民の心のふれ合いの場にもなっております。私はこの勝瑞で生まれた者として、今後もこの小さなともしびが消えるのをしのび、いつまでも続くことを願っている一人です。

藍住東小の児童(風流連)による阿波踊り



議会のうごき

11月

3日 各種功労者表彰式

4日 議会だより編集委員会

9日 町村議会議長全国大会
(東京都)

10日 議長研修(茨城県)

11日 藍住町戦没者追悼式

18日 防災対策特別委員会行政視察
(小松島市)

21~22日 市町村議会議員特別セミナー
(滋賀県)

24日 板野郡町議会議長会定例会
(板野町)

28日 議会運営委員会

平成28年第2回臨時議会
議会全員協議会

12月

6日 12月議会定例会開会

総務文教常任委員会

議会運営委員会

(仮称) 藍住町文化ホール・
公共施設複合化事業特別委員
会

9日 藍翠苑祭

13日 12月議会定例会一般質問

19日 12月議会定例会閉会

20日 徳島県町村議会議長会臨時会
(徳島市)

21日 板野東部消防組合議会臨時会
(北島町)

22日 板野西部青少年補導センター
組合議会(板野町)

1月

8日 藍住町成人式

10日 板野東部消防組合消防出初め
式(北島町)

16日 鳴門市正副議長就任挨拶来庁



成人式

編集後記

昨年2月の町議会改選より丸一年となりましたが、様々な出来事がありました。町民が熱狂した、リオ五輪での本町出身の松友選手の金メダル、女性初の都知事誕生、海外では、イギリスの国民投票によるEU離脱決定、アメリカ大統領選では想定外のトランプ氏の当選など。特に、記憶に残っているのが、甚大な被害をもたらした熊本地震、鳥取中部地震。近年頻繁に発生している震災です。今、私たちにとって一番の関心事で、近い将来必ず起きると言われている南海トラフ地震です。

防災対策はOKですか。備えあれば憂いなし。(鳥海 典昭)

議会だより編集委員会

委員長	徳元 敏行
副委員長	西岡 恵子
委員	林 茂
委員	鳥海 典昭
委員	奥村 晴明